

中央区文化・国際交流振興協会だより



「佃の渡し」(1964年)小川幸治

●特集●

八丁堀と小伝馬町牢屋敷の虚実

小伝馬町牢屋敷あれこれ 高橋千剣破

平成20年度の事業計画と予算

中央区 ひと 粹・生き 新富座こども歌舞伎

中央区文化振興プラン ~文化がつむぐ都心コミュニティ~



八丁堀と小伝馬町牢屋敷の虚実

小伝馬町牢屋敷 あれこれ

歴史・文芸評論家 日本ペンクラブ常務理事

たかはしちはや
高橋千劔破



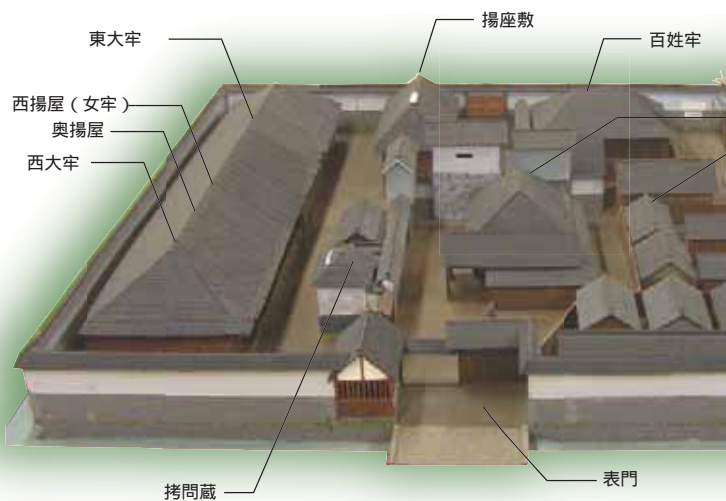
収牢者はすべて未決の刑事被告人

伝馬町の町名は、幕府御用の物資輸送に当たった伝馬役所が置かれたことに由来する。奥州街道をはじめ五街道への伝馬の継立を行なったところだ。小伝馬町と大伝馬町、それに京橋の南伝馬町があり、合わせて三伝馬町と称された。現在は、日本橋小伝馬町と同大伝馬町の地名がのこる。

その小伝馬町に、囚人を拘禁する牢屋敷がつくられたのは、江戸時代初期の慶長18年(1613)のこと。以後拡張され、江戸幕府最大の牢獄「小伝馬町牢屋敷」として、幕末まで続いた。明治を迎えても、新政府の監獄として引き継がれたが、明治8年(1875)市谷に監獄がつくられたことにより、廃止された。

江戸時代の牢舎は、刑事裁判中の未決囚の拘禁施設で、原則として既決囚を留め置かない。例外的に禁固刑に相当する「永牢」もあったが、遠島の囚人の船待などの場合を除き、罪が決まれば直ちに斬首・追放などの処置を行なった。現代のような懲役刑はない。罪人に、長期間ただで飯を食わせるなどということはないのだ。

ちなみに刑罰は、重罪人の場合は死罪か遠島、それ以外はほとんどが追放刑であった。死罪といっても、鈴ヶ森や小塚原で公開で行なわれた磔刑や火刑から、牢屋敷内での斬首までいろいろあった。遠島すなわち島流しが一番重いのが八丈送りであった。八丈島と三宅島の間には黒瀬川(黒潮)が流れていて、大きな帆船でしか渡ることができず、八丈島は島抜けが不可能な、まさに絶海の孤島であった。追放刑も、重追放・中追放・軽追放とあった。いずれも入墨されて、生涯江戸および定められた地域から追放された。さらに軽い追放刑では、江戸十里四方払いから門前払いまでであった。これに敵の刑や過料すなわち罰金刑が加わったりもした。また、庶民の軽犯罪者を対象とした30日から100日の手鎖、同じく押込



小伝馬町牢屋敷模型(十思校友会 管理)

などの刑もあった。押込は自宅軟禁である。

なお、小伝馬町牢屋敷に収容されたのは、町奉行が扱う犯罪者に限らなかつた。勘定奉行、寺社奉行、火附盗賊改役が管轄する未決の囚人たちを全て拘禁した。

牢獄内、地獄の沙汰も金次第

小伝馬町牢屋敷の広さは、敷地2,618坪余(約8,640平方メートル)、このうちに囚獄すなわち牢役人である石出帯刀の屋敷(480坪)があった。もっとも敷地と役宅の面積には、資料によって異同があり、2,677坪余ともいい、明治5年の資料では3,440坪余(約11,350平方メートル)とある。

牢屋敷の周囲には濠が巡らされ、南に表門があった。獄舎は、御目見以上の直参武士とこれに準ずる格式の僧侶・社人を収容する「揚座敷」、御目見以下の直参と各大家家所属の武士および同格式の僧侶・社人・医師を収容する「揚屋」、武家・庶民の別なく女性を収容する「女部屋(女牢)」、そして百姓町人以下を収容する「惣牢

(大牢)」に分かれていた。ほかに拷問蔵、処刑場、検死場、病人のための薬煎所、役人長屋などがあった。

囚獄石出帯刀は、町奉行配下で世襲制、代々石出帯刀を称した。役高300俵10人扶持で旗本格だが、賤しい役柄とされ「武鑑」などでも直参の最末尾に記された。牢内役人は、時代によって変動があるが、牢屋同心(20俵2人扶持)が50人から70人、牢屋下男(獄丁)が30~50人いて、牢内の警備や取締り、刑執行の立合いや事務などの諸事に当たっていた。

また、ほぼ毎日、南北の町奉行所から見廻衆が1名ずつ、それぞれ3名の下役を連れて巡回し、南北の町奉行本人も非番の月には見廻りに訪れた。大岡越前守や遠山の金さんも、2ヶ月に1度は来ていたのである。八丁堀にも与力1人と同心2人の牢屋見廻り役がいて、牢屋敷における諸般の事務を監督した。

ところで、牢舎の定員は350名程度で、最大収容能力は700名といわれた。ここに何と900名におよぶ過剰拘禁者が収容されていたことがあった。ぎゅう詰めになされたのは惣牢で、ほとんど立った状態での収容であったろう。通常は300人前後が拘禁されていたという。

揚座敷や揚屋はともかく、東西にあった惣牢の環境は最悪であった。便所もない(置便器のみ)雑居房で、混み合うと新入りは横になって寝るスペースもなかった。牢内を管理しているのは、ろうなぬし牢名主以下数人の牢内役人である。囚

人のうちから指名された者で、脱牢や自殺を防止し、給食や病人の世話をするなど、牢内の規律と環境を保つ役割を担った。

しかし実際は、牢名主と牢屋下男が結託して、囚人たちに金品を強要するなど、不正がまかり通っていたという。牢名主は御頭おかしらと呼ばれ、10枚ほど積み上げた見張畳の上に坐り、ツル(持参金)や牢見舞(差し入れの金品)の多い者を優遇し、気に入らない者にはリンチを加えたりもした。まさに地獄の沙汰も金次第である。

白州での取調べと獄舎での拷問

牢屋敷に入牢させるには、それなりの手続きが必要であった。罪人だからといっていきなり入牢させるわけにはいかない。町方の場合、容疑者はまず自身番で同心が取り調べ、そこで釈放する場合もあった。怪しい者は留置所のある大番屋へ連行して調べた。参考人と呼んだりして、場合によっては何日か取り調べた。事件によっては与力が立ち合うこともあった。

いよいよ容疑が固まると、同心は書類を整えて町奉行所に「入牢証文しゅうろう」を請求する。吟味方の与力がこれを検討し、問題がなければ「罪科疑わしきに付、仮入牢申付」という入牢証文を作ってくれた。この入牢証文がない限り、小伝馬町の牢屋敷では犯罪容疑者を受け入れなかった。

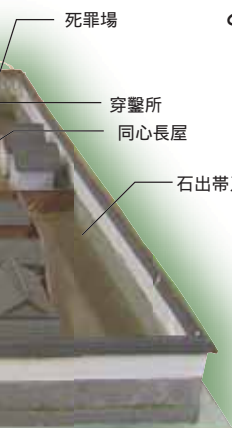
入牢証文があっても、まずは仮入牢である。入牢に際して念のために与力が吟味し、その結果本入牢となった。仮入牢の段階では被疑者だが、本入牢を境に刑事被告人ということになる。

入牢ののち取り調べは南北奉行所の白州で行なわれた。まずは初審、被告は数珠つなぎされて小伝馬町から町奉行所へと護送される。ちなみに南町奉行所は現在の有楽町駅前マリオンの辺り一帯、北町奉行所は東京駅八重洲口の観光会館の辺り一帯がその跡地である。どちらも小伝馬町から四半刻(30分)もあれば行ける距離だ。

町奉行が顔を出すのは、初審と判決をいい渡すときだけ。取り調べるのは吟味方与力で、奉行が直接あれこれ被告を問いただすなどということは、まずなかった。大岡越前守が、被告・原告の言い分を聞いて名さばきを見せたり、遠山金四郎がしらを切る犯人に片肌を脱いで罪を認めさせる、などということはなかったのである。町奉行は、裁判長であると共に警察の長官であり、消防署の長官であり、行政全般にわたるいわば江戸の市長だ。そんなひまなどないのである。

形式的な初審がすむと、あとは日を追って吟味方与力が本格的に取り調べる。罪状が明白であるのに、あくまでも白状しない場合は、牢屋敷内の拷問蔵に連れ戻して拷問にかけた。死罪の場合、どんなに罪状明白であっても、自白がなければ断罪できない建前であった。死罪以下の場合は、証拠や証人などの状況によって断罪できたが、自白があれば事は簡単だ。状況証拠だけや密告のみで逮捕され、自白を強要されて罪人に仕立て上げられたケースもあったにちがいない。もっとも拷問にかかる場合は、老中の許可が必要であった。拷問が必要と認められるケースはごく少なく、一年に一度か二度であったという。

地下鉄日比谷線の「小伝馬町」駅のすぐ側にある十思公園のあたり一帯が牢屋敷の跡地である。園地は「伝馬町牢屋敷跡」として東京都の旧跡に指定されている。



平成20年度の事業計画と予算の概要をお知らせします。
事業内容の詳細が決定していない事業については、決まり次第協会のホームページや区のお知らせに掲載いたします。

平成20年度事業計画

文化振興事業

1 機関誌発行・ホームページの更新

「中央区文化・国際交流振興協会だより」を発行するとともに、ホームページを更新し、協会の事業紹介や最新のイベント情報をお知らせします。

情報誌

部数：5,000部 A4版

発行回数：年2回（7月 - 49号、12月 - 50号）

ホームページ

URL：http://www.chuo-ci.jp/

2 芸術・文化の普及

(1) コンサート ~ 区民に親しみやすい音楽鑑賞の機会を提供します~

日時：平成20年10月23日（木）午後6時40分開演

場所：日本橋公会堂「日本橋劇場」

内容：白石啓太&ラテンカーナバル

参加費：1,500円

定員：440名

詳細：追ってお知らせいたします。



平成19年度コンサート

(2) 文化講座 ~ 中央区に関係のある文化・歴史について専門家の講話を聞く機会です~

総合テーマ：捕物帳の世界

大江戸八百八町を舞台とした捕物帳の名作を紹介。作者と作品を解説し、作中に登場する日本橋や八丁堀・浜町などの歴史にも触れる。

日時：平成20年9月4日（木）～25日（木）延べ4回
午後6時～

場所：日本橋公会堂 第3・第4洋室

内容：

岡本綺堂と半七捕物帖

講師：高橋千劔破（作家・元歴史読本編集長）

池波正太郎と鬼平犯科帳

講師：縄田一男（文芸評論家）

捕物帳名作講談

講師：神田松鯉（講談師・エッセイスト）

平岩弓枝と御宿かわせみ

講師：縄田一男（文芸評論家）

参加費：無料

定員：100名



平成19年度文化講座

(3) 特別文化講演会 ~ 各展覧会にあわせ、NHKとの共催で開催します~

なお、講演会参加者には展覧会の招待券を、お一人様一枚差し上げます。

北京故宮 書の名宝展

日時：平成20年7月12日（土）午後2時

場所：築地社会教育会館 視聴覚室

講師：大東文化大学教授 澤田雅弘

参加費：無料

定員：80名

源氏物語の1000年 あこがれの王朝ロマン

日時：平成20年10月3日（金）午後6時30分開演

場所：月島社会教育会館 ホール

講師：龍谷大学客員教授 藤本孝一

参加費：無料

定員：200名

詳細：追ってお知らせいたします

(4) 古典芸能鑑賞会 ~ 中央区に深い関わりをもつ清元、浄瑠璃などの古典芸能を鑑賞する機会です~

中央区を中心に活躍されている古典芸能実演家を構成員とする「中央区古典芸能の会」が企画・制作を担当し、本年は10周年記念として開催しました。

日時：平成20年6月21日（土）午後6時開演

場所：日本橋公会堂「日本橋劇場」

内容：清元素演奏、落語、講談、舞踊・常磐津、講話、箏曲、舞踊・長唄

参加費：2,000円

定員：400名



舞踊・長唄 連獅子



舞踊・常磐津 京人形

(5) 文化推進事業助成

協会の目的とする事業を推進するため、区民が主体となつて行う文化振興事業の後援及び事業実施に要する経費の一部を助成します。

助成件数：13件

助成金額：事業に要する経費の1/2で10万円が限度

(6) 中央区まるごとミュージアムの開催（新規事業）

明治維新140年・江戸開府405年の節目となる本年を文化飛躍元年と位置づけ、中央区との共催で民間の文化事業を含む区内のさまざまな、文化的な魅力を区民等に体験してもらうための文化イベントを実施します。

日時：平成20年11月2日（日）

場所：晴海トリトンスクエアを拠点として中央区全域

内容：区内をめぐるバスや船の運行
文化事業や文化施設等を紹介するマップパンフレットの作製・配布
当日における文化事業の開催・招致

詳細：追ってお知らせいたします

(7) 文化振興プロデュースチームの設置（新規事業）

「中央区文化振興プラン」の提言を受け、区民（企業、NPO等を含む）の自主的な文化活動の推進・拡大を図るため、アートプロデューサー等文化の専門家で構成するプロデュースチームを設置し、具体的な文化事業の企画・立案、文化ボランティアの育成等に向け、仕組みづくりを進めます。



平成19年度国際交流のつどい

(2) ホームステイ・ホームビジットの実施～

姉妹都市等関係の深い都市の公的紹介のある外国人に対し、ホームステイを実施しています。また、区内在住・在勤の外国人で日本の日常生活を知り、日本人との交流を望む人に対し、ホームビジットを実施します。

(3) 姉妹都市親善写真展

姉妹都市であるオーストラリア・サザランド市との親善を一層深めるため、相互に写真を交換し、親善写真展を開催します。

日時：平成21年2月

場所：区役所1階ロビー、日本橋特別出張所1階ロビー、月島特別出張所1階コミュニティフロア

(4) 日本語指導・交流会

日本語でコミュニケーションをとることが困難な区内在住・在勤の外国人を支援するため、日本語教室を開設しています。

国際交流振興事業

1 姉妹都市等との親善及び国際化の推進

(1) 国際交流のつどい

区内在住・在勤の外国人に日本の伝統文化を紹介するとともに、外国の文化にふれ区民レベルの相互交流を図ります。

日時：平成20年11月15日（土）正午～午後4時

場所：月島社会教育会館 4階全室・ホール

INTERNATIONAL EXCHANGE PARTY

This event is held once a year to introduce Japanese culture in order to strive for the promotion of International Exchange between citizens and foreign residents living in Chuo City.

Date & Time: November 15, 2008 (Sat) 12:00 ~ 16:00

Place: Tsukishima Social Education Center, 4th fl.

Fee: Free

Experience Japanese culture!

日程	第1、第2、第3水曜日	第1、第2、第3木曜日	第2、第3、第4土曜日
時間	午後6時30分～8時	午前10時～11時45分	午前10時～12時
場所	女性センター「ブーケ21」	協会講習室	協会講習室

JAPANESE LANGUAGE CLASSES

Chuo Cultural and International Exchange Association (CCIEA) offers Japanese Language classes by volunteer teachers.



日本語教室

Class	Wednesday Class	Thursday Class	Saturday Class
Schedule	Every 1st, 2nd & 3rd Wednesday	Every 1st, 2nd & 3rd Thursday	Every 2nd, 3rd & 4th Saturday
Time	18:30 ~ 20:00	10:00 ~ 11:45	10:00 ~ 12:00
Place	Chuo-ku Women's Center "Bouquet 21", 4th fl. Work room, (1-1-1 Minato, Chuo-ku, Tokyo)	CCIEA Office, 3rd fl. Lecture Room, (1-13-24 Shintomi, Chuo-ku, Tokyo)	CCIEA Office, 3rd fl. Lecture Room, (1-13-24 Shintomi, Chuo-ku, Tokyo)
Fee	Fee About ¥2,500 (no fee for the lesson, only for the textbook)		

(5) 国際交流サロン

外国人と日本人が気軽に交流が出来る場を提供します。ボランティアによる企画・運営により懇談、区内散策、料理教室、七夕、等を実施しています。

日 程：4月12日、5月17日、6月14日、7月12日、8月23日、9月20日、10月18日、12月13日、21年1月17日、2月21日、3月14日

場 所：協会講習室等

INTERNATIONAL EXCHANGE SALON

In this salon, both Japanese and non-Japanese residents can enjoy free and open communication with each other. For the people who want to make a lot of friends and who want to enjoy conversation in Japanese, experiences of Japanese culture and various events such as Tanabata, Cooking, Excursion, etc. are scheduled to take place. Why don't you come and join us.

Date: Apr. 12, May 17, Jun. 14, Jul. 12, Aug. 23, Sept. 20, Oct. 18, Dec. 13, Jan. 17, 2009, Feb. 21, 2009, and Mar. 14, 2009.

Time: Basically 13:30 p.m. ~ 15:30p.m. (varies depending on the events)

Place: Lecture Room of CCIEA Office

Fee: Free

For more information, contact CCIEA.



料理教室

(6) 交流都市調査等

海外交流の推進を図るため、外国の都市との交流・調査を行います。

(7) 国際交流推進事業助成

協会の目的とする事業を推進するため、区民が主体となっていく国際交流推進事業の後援及び事業の実施に要する経費の一部を助成します。

助成件数：4件

助成金額：事業に要する経費の1/2で10万円が限度

(8) 外国客船歓迎式

東京港晴海埠頭に着岸する外国客船の入港時の歓迎行事に参加し、記念品の贈呈を行っています。



平成20年6月に初入港した COSTA ALLEGRA号

2 ボランティアの登録・育成および活動

(1) ボランティア委員会

ボランティア間の連携・一体化、協会との協働を図るため例会会議等を開催します。「国際交流のつどい」の実施についても検討を行います。

(2) 日本語指導者養成講座

外国人に日本語を教えるボランティア指導者を養成するための講座を開講します。

日 程：平成20年8月2、9、16日、9月6、20日の土曜日
時 間：午前10時～午後3時まで（休憩1時間を含む）
計20時間

場 所：協会講習室

受講者：25名

(3) 日本語フォローアップ講座

外国人に日本語を教えるボランティアの指導力を高めるため、フォローアップ講座とステップアップ講座を開催します。

平成20年度予算

< 収入 >

科 目	予算額(円)	説 明
事業収入	1,350,000	コンサート・古典芸能鑑賞会参加費等
区補助金	66,083,000	区からの補助金
雑入	30,000	預金利子
収入合計	67,463,000	

< 支出 >

科 目	予算額(円)	説 明
事業費	40,512,000	
文化振興費	33,679,000	文化振興事業に要する経費
国際交流振興費	6,833,000	国際交流振興事業に要する経費
管理費	26,851,000	
人件費	23,430,000	職員の給与に関する経費
管理運営費	3,421,000	理事会、事務費等
予備費	100,000	
支出合計	67,463,000	

新富座こども歌舞伎

江戸の昔より続く町の伝統芸能を
子供たちに体験させ、幅広い
世代が楽しめる「ふるさと文化」に

●「新富座こども歌舞伎」の会

昨年、新富に生まれた「新富座こども歌舞伎」京橋プラザ区民館でのお披露目公演を経て、今年2月3日に節分祭奉納歌舞伎として、鉄砲洲稻荷神社境内の神楽殿において、第一回本公演が開催されました。演目は盗賊3人の人間模様を描いた「三人吉三巴白浪」。子供たちののびやかな演技に、観客から笑いと拍手喝采が起りました。そして三回目の公演、例大祭奉納公演が、同じ神楽殿で5月4日に開催され、こちらも大盛況。今回はそんな話題沸騰中の「新富座こども歌舞伎」の代表を務める諸河文子さんにお話をうかがいました。

「こども歌舞伎」を始めようとしたきっかけは？

諸河 一昨年、長浜のこども歌舞伎を観たとき、もう直感的に「新富でこれをやりたい」と思いました。ここは昔、新富座という芝居小屋があったんです。今も歌舞伎座はすぐそばで、舞台にたずさわる仕事の方は大勢いらっしゃいます。ここでこそ、町衆で歌舞伎を作って楽しむ場所なんじゃないかと思ったのです。

子供たちの反応はいかがでしたか？

諸河 子供たちのほとんどは、まだ歌舞伎を観たことがなくて、台本は大人と同じ内容ですし、はじめはとても不安そうでした。台詞にふりがなを付ける最中に泣き出す子や、出番を減らして欲しいというお母さん



もいたり…。でもちょうど東急文化村の「コクーン歌舞伎」で同じ演目の「三人吉三」がかかっていたので、みんなで見に行きました。そうしたら大喜びして、心配していた長い台詞もすぐに覚えてしまったんです。今では楽しくてしょうがないみたいです。

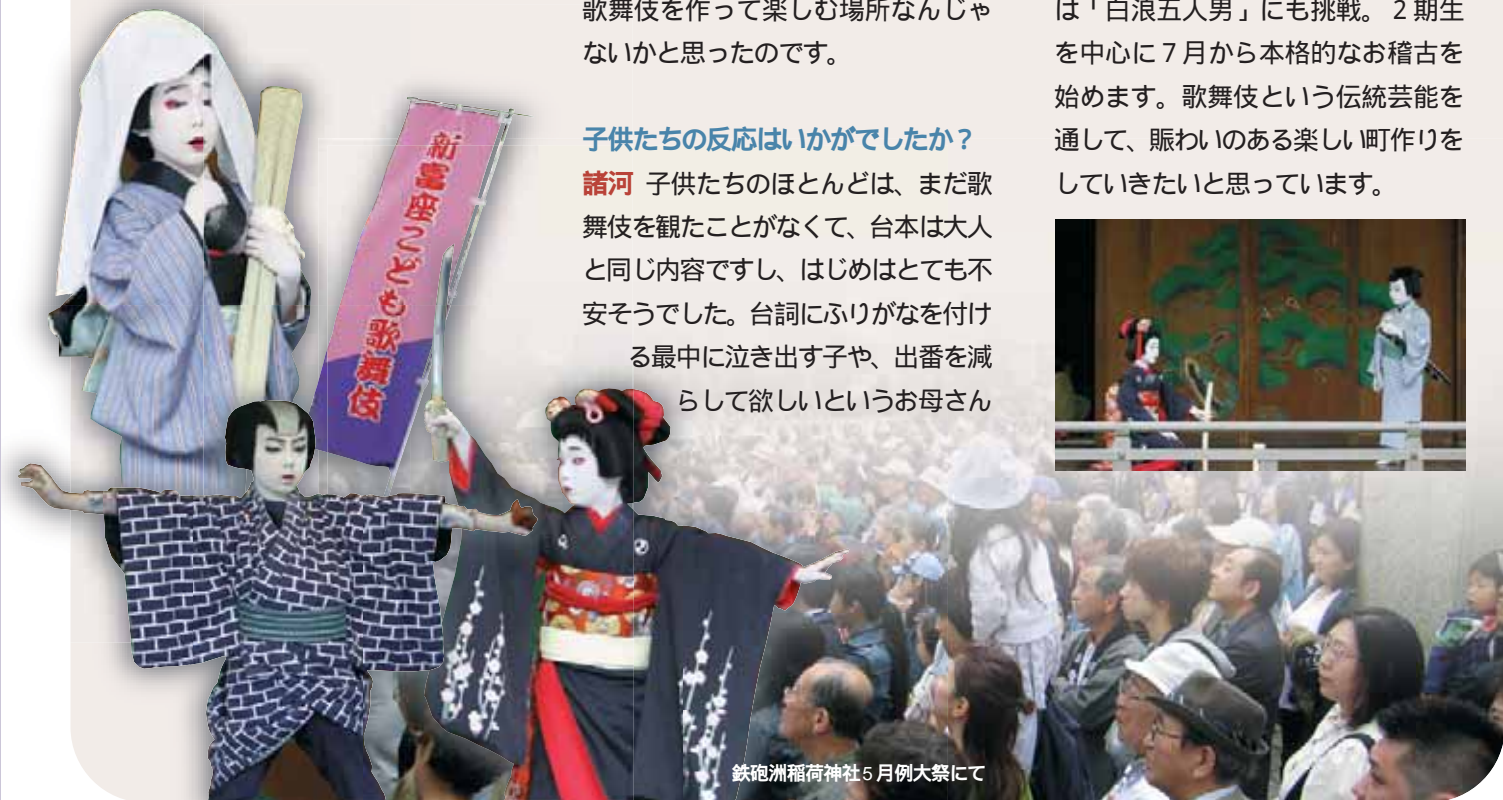


「こども歌舞伎」を始めたことで、地域の雰囲気は変わりましたか？

諸河 三味線などの音楽や制作、宣伝など、裏方のスタッフの多くは地元の商店街や町会、父兄の方。共同で一つの舞台を作り上げていくことで交流が深まりました。

これからの活動のご予定は？

諸河 今後も鉄砲洲稲荷神社で2月の節分祭と5月の例大祭の年2回、定例公演を行っていく予定です。来年は「白浪五人男」にも挑戦。2期生を中心に7月から本格的なお稽古を始めます。歌舞伎という伝統芸能を通して、賑わいのある楽しい町作りをしていきたいと思っています。



中央区文化振興プラン

～文化がつむぐ都心コミュニティ～

中央区は、昨年7月に法政大学の陣内秀信教授を座長とする「中央区文化振興懇談会」を設置し、本年3月に中央区における文化振興のグランドデザインとして中央区文化振興プランの提言を受けました。中央区文化・国際交流振興協会は、同プランに基づき区と連携して区民が主体となった文化振興を進めてまいります。

背景

区では、急激な人口増加が進む中、新たな都心コミュニティづくりが大きな課題となっています。そこで、江戸開府以来4百年の歴史や伝統に基づく豊かな文化を背景に文化振興を進め、誰もが心豊かな生活を送るとともに、互いの交流や地域の活性化を図ることとしました。

中央区文化振興プランの位置づけ

今後は中央区文化振興プランに基づき、区民が主体となった文化振興を進め、区全体を、誰もがとらえ合える「サロン」、宝物にあふれみんなが心豊かになれる「ミュージアム」、1人ひとりが演じがややく「ステージ」にしていくよう目指していきます。

文化振興の実施主体と役割

区民（在勤者等を含む）

文化の担い手として、主体的に文化活動に取り組み、文化の魅力を高め、次世代に伝えていきます。

企業やNPO等

地域の一員として文化活動を行うとともに、区民の文化活動を支えていきます。

区

中央区文化・国際交流振興協会等の関係機関とともに区民や企業、NPO等の文化活動を支え、そのための環境整備を行っていきます。

取り組み内容

プランでは、「継ぐ～文化の継承～」、「創る～新たな文化の創造～」、「活かす～文化特性の活用～」、「育む～人づくり～」、「支える～基盤の整備～」の5つの体系に区分して具体的な各取り組みを提案しています。

重点プロジェクト

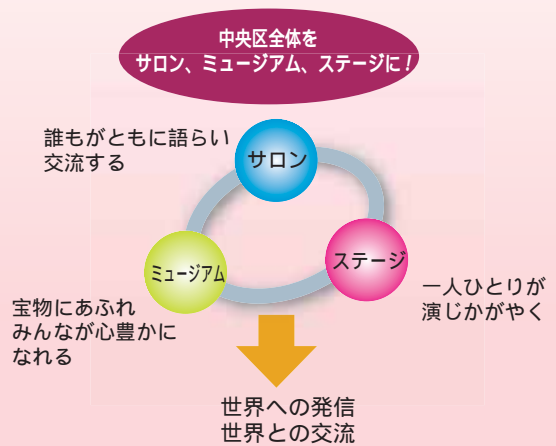
中央区まるごとミュージアム

中央区は名所・旧跡、画廊・美術館、水辺などさまざまな魅力が満ち溢れ、まち全体があたかもミュージアムのようなものです。こうした文化的な魅力を誰もが認識し発見できるよう、さまざまな文化事業等の開催や招致を行うとともに、バスや船等を使って区内を回遊しながら区のさまざまな文化に親しめる取り組みを行ってまいります。

プランおよび概要は、文化・国際交流振興協会や図書館等で閲覧できるほか、中央区のホームページからダウンロードできます。

めざしていく 都心コミュニティの姿

区民一人ひとりの心豊かな生活の実現
住民、在勤者、訪問者等みんなが互いを尊重し協力し合う



文化振興プロデュースチーム

アートプロデューサー等の文化の専門家からなるプロデュースチームを設置し、区で行うべき文化事業の具体的な企画・立案を行い、区民の活動を支援するとともに、文化ボランティアの育成等を進めていきます。

区民フォーラム

区民をはじめ、企業、NPO、大学等から区の文化に関心を持つ人たちが幅広く集まる組織を設置し、区における文化振興の現状や今後について検討するとともに、具体的な取り組みを企画、運営していきます。また、文化振興プロデュースチームが企画したり支援が必要と考える文化事業のサポートや、区の文化振興に関する評価を行う役割も検討していきます。

文化振興基金

文化振興を財政面から担保するため、文化振興基金を設置します。市街地の開発は、地域のコミュニティや文化に大きな影響を与えることから、大規模開発事業を行う事業者に対し求めている開発協力金の一部等を、基金の原資として充てていきます。

今年度の取り組み

プランの提言を踏まえ、本年を「文化飛躍元年」と位置づけ、
中央区まるごとミュージアムの開催
文化振興プロデュースチームの設置
を進めます。[詳細は20年度事業計画の文化振興事業(6)(7)参照]

表紙

佃の渡し 小川 幸治

東京五輪の年に佃大橋がかかり、江戸時代から320年間の渡し役目は昭和39年に終えた。正保のころの手漕渡船にはじまり、民営から東京市営、中央区営と移った。小魚の行商人・中学生・自転車対岸の町、佃島と湊町を8の字型に往復する。なぜか皆無言で波の音を聞く。船底一枚下は、海のように川幅の広い隅田川。落語「佃祭」や新派にも佃の渡しは語り継がれる。

2回にわたり「中央区 映画の思い出」を執筆いただいた、映画評論家水野晴郎氏が6月10日に急逝されました。4回の連載を快くお受けいただいたのに大変残念です。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。中央区文化振興懇談会から区に対して、中央区における文化振興のグランドデザインとして「中央区文化振興プラン」の提言がありました。協会は、区と連携を図りながら、区民や企業、NPO等の文化活動を支え、そのための環境整備を進めてまいります。